

机の上のことばの海

——『ベーシック ジーニアス』を使って

武川伸一



■はじめに

本校の英語の授業は、1年生で3単位、2年生で2単位、3年生で2単位で、合計7単位です。それに選択の授業が2年生で2単位、3年生で2単位の合計4単位となっているので、3年間の英語の授業は最大で11単位になります。しかし、圧倒的大多数は7単位を履修して卒業するのが現状です。

3年間で7単位の授業で何をしていくのかを考えた時、教科書を中心としながらも、もし卒業後に英語を学ぶ必要に迫られた時に、ほとんどすべての答えは辞書の中に求めることができることを知っておいてほしいと考えました。そのことを実感として覚えてほしいと思い、授業中に辞書を引く時間をできるだけ取るようにしています。

この場で報告するに値するような実践は何も持ち合わせませんが、拙稿を読まれたみなさんに安心してもらえる(?)のではないかと思います、稿を起すことにしました。

■『ベーシック ジーニアス』を選んだ理由

本校で『ベーシック ジーニアス』を使って3年目になります。現在は全学年が同じ辞書を使っています。

『ベーシック ジーニアス』を推薦するのは、そのバックボーンに、定評のある『ジーニアス英和辞典』があるからです。

私自身、とても愛用していて、G2は何度も引いたので、カバーから本体がとれてしまったほどです（決して不良品でも、私が乱雑に扱ったわけ

でもありません）。ほとんど全てのページに色鉛筆で線が入っています。それほど愛着のある辞書を底本としている『ベーシック ジーニアス』ですから、大いに信頼しています。

■授業の実際

「はい、教科書と辞書を忘れた人～！」

まずこの一声から授業が始まります。何も言わなくても、全員が教科書と辞書を持って来ている、ということではなくて、仕事をさせてくれます。毎時間調べていると、全員が教科書と辞書を持って来ているクラスがだんだん出てきます。全員は持って来ていなくても、忘れる生徒は多くても3～4名ほどに収まります。

それから、授業プリントを配布します。プリントには、教科書の本文を載せ、単語や熟語とその意味を書き込めるスペース、それから、英文の意味を書くスペースがあります。（これは議論のあるところだと思いますが、基礎・基本の力をつけていくには簡単に時代遅れだと言いつけられないと思っています。）

単語や熟語については、新出の単語や熟語だけではなく、必要だと思われる語はスペースのある限り載せるようにしています。例えば、不規則動詞の活用は、その単語が出るたびに書かせることにしています。プリント1枚に載せる単語・熟語の数は20～30です。それを板書している間に、生徒は辞書で調べます。理想を言えば、板書の時間内で、すべての単語・熟語が調べられていればいいのですが、現実には、生徒は自分が当たる順番を

知っていて、その単語・熟語だけの意味や活用形を調べます。でも、欠席者がいたりして順番が違っているのに気がつかないで、自分の順番を迎えることが間々あります。このときがチャンスです。生徒と一緒に辞書を引きはじめると、当然のことながら「常勝」です。すると、次のようなやり取りが展開されます。(実際は広島弁ですが標準語に翻訳します。)

「なぜ、そんなに辞書を引くのがはやいのですか。ページを覚えているのですか。」

「まさか、そんなことはないよ。それは今までに辞書を引いている回数が違うからね。」

こういった時に、英語の学習をしていく上での辞書の効用を少し話したりします。

そうして意味を答えてもらうのですが、その時も珍答が出たりします。その多くの場合が、その単語の原義を答える場合です。現在の意味に近いものもあれば、元はそういう意味だったのかと思うようなものもあります。そういった時もチャンスです。辞書の構成について説明できるからです。

また、品詞の区別がつかない場合なども、合っているようでもう一步違う答えが出てきます。そういう時も、品詞の区分を知るためのいい機会になります。

ただ、いつもそんなに時間をかけているわけにもいかないので、あらかじめ品詞を指定する場合もあります。

また、熟語や成句などの意味を調べるのも一苦労です。何をどのように調べるとその熟語や成句に行き当たるのかが全く見当がつかない時があります。そういう時もまた辞書の引き方を説明するいい機会だと思っています。

■辞書で「調べる」と、辞書を「読む」と

辞書は、言葉の意味を調べるためにあるのですが、授業の中でできるだけ辞書を読む時間を取るようになっています。

例えば、月並みですが、動詞 take など語義がたくさんあるものなどは、教科書に出てくる意味だけでなく、一斉に辞書を開いて読むようにしています。そうすることで、言葉の多義性を感じてもらえたらと思っています。

また、囲みになっている語法の部分も必要に応じて読むようにしています。先日も、よく下調べもせずに、授業プリントに Here is (are)～. を載せて意味を書き込ませるようにしていました。そうすると、生徒はその形の意味が見つからずに苦労していました。そんなわけないだろうと思って、辞書を見てみると本当にないッ！と内心少し焦りましたが、囲み記事の中に発見することができました。これはいい機会だと思い、それを答える生徒だけでなく、他の生徒にもその囲みの部分を読んでももらいました。

このような形で、「辞書指導」と大上段に構えるのではなく(大体、こちらがまなじりを決して力み返っても、成果はそんなにない)、授業の中で辞書を使う機会をできるだけ多く作るようにしています。そうする中で、辞書に親しみを覚え、英語を学習していくのに辞書は欠くことのできないものであることを実感してもらえたらと思っています。

■紙の辞書と電子辞書と

現在、率直に言って、私個人は電子辞書派です。魅力は、検索の速さと携帯性です。

ただ、高校生には、まだまだ紙の辞書を使ってもらいたいと思います。「紙」の長所は一覧性だと思います。見開き2ページの量は電子辞書のディスプレイには出ません。

自分が調べたいことばだけではなく、辞書ということばの海で道草するのには、紙の辞書の方がうってつけだと思います。

(たけがわ しんいち・広島県立宮島工業高等学校教諭)